

製品と生コンが交流

コンクリート技術交流会

日本コンクリート技術

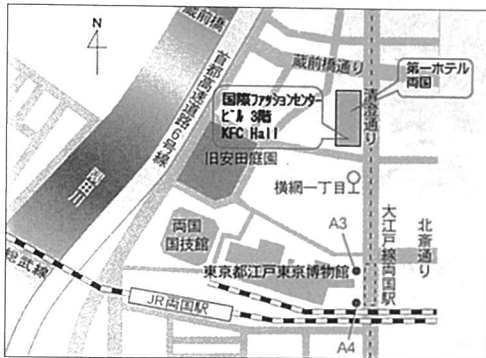
第8回コンクリート技術交流会

(主催・日本コンクリート技術)が11月2日、10時から国際ファッションセンターKFCホール(東京都墨田区)で開催される。

コンクリート技術交流会は、建設現場の最前線で活躍する建設技術者の役に立つ最新情報を提供することを狙いとして、日本コンクリート技術(本社、東京都墨田区両国四一三八一、社長 篠田佳男氏)が平成16年から毎年開催しているもの。東日本震災後は5回にわたり「コンクリート技術



昨年の様子



「プログラム」

大会」として被災地で開催、一昨年から「コンクリート技術交流会」に戻して開催している。
【参加費用】事前申込1万2960円、当日申込1万5000円(資料集CD-ROM代金・消費税込)。
【申込方法】日本コンクリート技術のウェブサイトで参加申込書をダウンロードし、EメールまたはFAXで申し込む。
【問い合わせ】日本コンクリート技術、電話03(5669)6651、FAX03(3632)2970。Eメール・munata@ic-tech.co.jp

●開会挨拶(10時〜10時5分)長瀧重義(東京工業大学名誉教授)
●パネルディスカッション(10時5分〜12時)「コンクリート工事の生産性向上に向けた施工性の改善提案」(概要)国土交通省は建設工事における生産性向上と魅力ある工事現場の実現を目指してi-コンストラクションを推進しており、コンクリート構造物の施工における生産性向上はその中心的な課題のひとつとなっている。ここでは、コンクリート工事における施工性改善やプレキャストコンクリート製品の活用促進の観点から有識者をパネリストに迎えて活発な議論を行い、現場に有益となる情報を提供する。
【コーディネーター】本間淳史(東日本高速道路)「パネリストおよび提供話題」▽渡辺博志(土木研

究所)「コンクリートの生産性向上に対する国の取組」▽橋詰幸信(大成建設)「コンクリート工事におけるCIMの活用事例」▽岡本大(鉄道総研)「鉄道工事におけるP Ca工法の活用事例」▽中積健一(三井住友建設)「P Ca化による橋梁工事の生産性向上」▽河野一徳(日本コンクリート技術)「P Ca埋設型枠を活用した合理化施工」
●パネル展示(13時20分〜16時30分)「内容」出展各社が保有するコンクリートの現場施工に役立つ製品や技術に関して、参加者に最新情報の収集と情報交換を行う場を提供。各出展社が持ち時間10分程度で対象技術のプレゼンテーションを行った後、会場内に設けた各社の展示ブースに分かれて個別に詳細説明や質疑応答を行う。
▽愛知製鋼/ステンレス鉄筋コンクリートバー「サスコン」▽アストン/コンクリートの躯体防水あるいは耐久性向上に貢献する「CS21シリーズ」製品群▽安藤・間/トンネル覆工コンクリートのひび割れを効率的に経済的に抑制し、また、安定した表層品質のコンクリートを提供▽KSK/3次元データを使用した構造物の「記録」「出来形管理」「維持管理」「施工計画」▽コンステック/正しい診断したかな施工を一步先へ▽太平洋セメント/太平洋セメントは、これまでに培ってきた技術

力と自由な発想で時代のニーズを先取りし、安全・安心な社会のミライを目指して、これからも挑戦を続けます▽デンカ/できるをつくる。挑戦し続ける「デンカの新技术」▽ニチバン/コンクリート構造物のひび割れを補修する低圧注入工法について。補修材注入の際にひび割れ表面の目止めを行うシール材の代替となるシールテープ「せこたんTM」▽フローリック/未来をカタチに変える創造力▽前田工織/トンネルの覆工コンクリート条件によって使い分ける剥落防止工法▽前田製管/小規模橋梁をP Caボックスカルバートへ。橋梁長寿命化修繕等のインフラ老朽化対策に、弊社のP Caボックスカルバートで良質なインフラ整備を提供いたします。
●特別講演(16時40分〜17時50分)「日本のプレストレストコンクリートが持続可能であるためには」春日昭夫(三井住友建設執行役員副社長)
【講演内容】日本にプレストレストコンクリート技術が導入されて60年以上になるが、今後の日本のPC技術の持続可能性を考えたとき、何が課題となり、それらをどのように克服して展開していったら良いのかをテーマに論じる。
●意見交換会(18時〜20時)KFCホール「ホワイエ」にて